

＜ もくじ ＞	
1. 「長期計画検討委員会」が発足しました	1
2. 「第2回連続講座」の報告	1
3. 研究会からのお知らせ	3
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお願い	4

## 1. 「長期計画検討委員会」が発足しました

2020年10月30日の当学会「創立20周年記念大会」では、「シニア社会学会のこれまでとこれから」がテーマでした。また2020年は、「コロナ禍」という予想を超える問題にも直面し、オンラインによる活動運営などへの切り替えも余儀なくされ、当学会としても時代の変化を強く意識してこれからの団体としての活動を見直していくことの必要性を感じる年となりました。

そして、大会後の運営委員会では、大会での学会創立当時の熱気あふれる議論を振り返り、また超高齢化と人口減少などその後の社会の動き、会員の高齢化や会員減少、活動の停滞という事態に対処を求められている現状を認識し、長期的展望のもとに当学会のあり方を真剣に考えるために、「長期計画検討委員会」の立ち上げを決定いたしました。

メンバーを選定するにあたり、創立当時の雰囲気や企画内容についての資料をも掘り起こし、それらに基づいて新しい会員の新鮮なアイデアと技能によって問題に取り組んでいく体制をつくるべく、とくに最近会員になられ目覚ましい活動をしておられる会員、および創設当時の会員と中堅的位置にいる会員にも参加を依頼し、2021年の年明けまで模索を続けてきましたが、以下の会員がとりあえず発足時のメンバーとなりましたことをご報告いたします。

小平陽一、富田光則、中村昌子、本田恭助（3月から参加）、森やす子、安田和紘、  
八巻睦子、袖井孝子、長田攻一（順不同）

そして2月4日（木）に第1回委員会が開催され、2008年に行った学会員の学会に対する現状認識、人材的要素、期待などを調べるアンケート調査を参考に、現時点での会員に対するアンケート調査を行うことが提案されました。第2回は3月4日（木）に開催され、1年程度のスケジュール表を作成し、とりあえずこれからの当学会のコンセプトについての議論をしたうえでアンケートの概要を詰める必要があることから、具体的な日程や方法については今後の委員会で決まる予定です。そこで、会員の皆様にも、「20周年」であることやコロナ禍という事態の中で、当学会はこれまでの成果を踏まえながらも今後どのような団体としてどのような活動をしていくべきかについて、アンケート調査にご協力いただき、それぞれのお考えを表明していただければ幸いです。

（事務局長 長田攻一）

## 2. 2020年度第2回連続講座「シニアの暮らし、ジェンダー ～家庭科が生きてくる、市民大学オンライン講座の試みから～」の報告

2020年度の連続講座は第1回に引き続き、第2回もオンラインで開催することを余儀なくされましたが、遠方からの参加申し込みもありオンライン開催の利点を生かしていく試みとして有意義でした。しかし講座の最後に差し掛かるときに、開催者の接続が切れるというトラブルがあり、一瞬、戸惑いと混乱が生じて参加者からの質疑応答などに若干支障が出てご迷惑をおかけすることがありました。とはいえ、講師の控えめな人柄と穏やかな話しぶりにより、講座は大変良い雰囲気で行

し何とか終わることができました。

(1) 日 時：2021年2月13日(土) 14:00~15:15

(2) 開催方法：Zoomによるオンライン講座

(3) 講 師：小平陽一(当学会運営委員、さやま市民大学講師、蚊とんぼファーム代表)

(4) 概 要：

今回の小平陽一さんのお話は、1時間という短い時間内で、まず導入部分で、細やかにデザインされたご自身の食卓や家具など身の回りの生活用品を紹介され、ご自身の生活スタイルに参加者を引き込みました。そして前半では、若いころから「家庭科」という教科に関心を向け、高等学校の化学の教員から家庭科への教員へと転身した経緯やその後の関心事について語られ、国際婦人年(1975)、女性差別撤廃条約(1980)、男女雇用機会均等法(1985)、家庭科の男女共修(1994)、男女共同参画社会基本法(1999)など、世界と国内の時代の変化を背景に、家庭科の教員を経て立教セカンドステージ大学へと進学されましたが、その長い過程で培われてきたご自身のジェンダー観・人生哲学が静かな語り口を通じて伝わってくるようでした。



それは後半、現在の活動として「蚊とんぼファーム」の運営と子ども食堂への作物の供給のほか、綿の実の栽培から糸を紡ぎ、染めもの、伝統的「唐棧双子織」による和服や現代的衣服の縫製に至る多彩な活動の紹介へとつながり、前半のお話の人生哲学が、地域での多彩な活動に反映されているように思われます。さらには、現在さやま市民大学での講師を務めることで、自らの家庭科の授業の経験を活かし、長年勤めた職場を退職された方々を対象に、料理教室や農作物の栽培と収穫などに参加してもらうことによって、現代社会で孤立しているシニアの人々がそれぞれの多様な生き方を尊重しながら地域に根付いた暮らしの中でお互いを支えあう可能性を探っている様子が窺えるお話でした。これからの日本の社会が目指すべきあり方を提示しており、参加者の共感を呼ぶものでした。

参加者は18名でしたが、アンケートからは以下のようなご意見が窺えました。

\* 小平先生の実にしなやかな柔軟な人生哲学・価値観に憧れを感じます。非常に大切な経験に触れさせていただいた印象です。ありがとうございました。

\* 老若男女世代を超えた社会参加について勉強しております。大変有意義な講演をありがとうございました。

\* 教え子ではなく講師と同年代で行動を共にした方がどうであったかが、もっと実態をつかめて、今後の参考になったのではと思いました。

\* 小平さんの開拓者精神と実行力に感服です。このようなアクティブ・シニアの活動が軸になって「行動する学会」イメージができればいいと思いました。

\* 「主夫」の社会的認知、「主人」の呼び方へ問題定義してくれたことが良かった。ジェンダーの観点からも、今後、子どもたちが積極的に家事に関わったり、food lossやEco,そして、豊かな食文化等に関心が持てるように、家庭科が今後ますます魅力的な教科になって欲しいと思った。

\* 夫にも聞かせたいと思う内容でした！家庭科や生活関連講座を学んだ男性からの感想や実践事例についてもっと知りたくなりました。

\* 講義の時間は適切だったと思いますが、もう少しみなさんの意見を聞く時間があればよかったです。

\* 小平さんの体験に基づくお話しでしたので、説得力がありました。

\* オンライン講義をトラブルなしに実施するのは難しいですね。

### 3. 研究会からのお知らせ

#### (1) 第18回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年3月17日(水) 15:00~17:00
  - 2) 場 所：Zoom 開催
  - 3) 概 要：今後の研究会の進め方について
- ※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

#### (2) 第130回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年4月21日(水) 18:00~20:00
  - 2) 報告者：近藤和子(マザリング&ライフマネジメント研究所代表・(公益)日本尊厳死協会理事・みんなのMITORI 研究会代表)
  - 3) テーマ：「次世代への贈り物〜リビング・ウィル〜」
  - 4) Zoom で開催いたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。  
阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com
- ※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

#### (3) 第75回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年4月22日(木) 15:00~18:00
  - 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
  - 3) テーマ：「青鞥の女性たち/平塚らいてうと伊藤野枝を中心に」
  - 4) 発表者：堀江副武
  - 5) 参加費：300円
- ※ お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願いいたします。

#### (4) 第63回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日時(予定)：2021年5月上中旬(日時は次号以降にてお知らせいたします)
  - 2) 方法：Zoom による会議方式
  - 3) 報告者：野坂真(早稲田大学)
  - 4) テーマ(仮)：「地域社会における災害復興と地域存続—東日本大震災前後における岩手県大槌町・宮城県気仙沼市の津波被災地域を事例として—」
  - 5) 参加費：無料
- ※ 今回は事前にeメールでお申し込みいただき、そのeメールアドレスで会議参加者として登録する方式を取りたいと思います。ただし、参加者の上限に達した場合は打ち切らせていただく可能性があること、ご理解とご了承をお願いいたします。
- ※ 開催日時が決まりましたら、あらためましてお知らせいたします。
- ※ お問い合わせとお申込みは、長田(pfb00052@nifty.com)まで

#### (5) 「YNS やまぶき任意後見サポート会」からのお知らせ

新型コロナウイルスによる政府からの規制により、きゅりあん研修室は夜間の会場使用ができません。携帯やパソコン環境がなくZoomなども難しく、残念ながら会を延期せざるをえませんでした。4月から再開予定です。場所はキュリアンの予定です。しかし、日、時間が未定です。新たな方針としては、「認知症当事者の会」として目指していきたいと考えております。その中で、当事者等による人形劇や芝居などで認知症の問題を考えていきたいと考えています。

※ お問い合わせは、鈴木真澄(mme\_masumi@yahoo.co.jp)までお願いいたします。

### 4. 研究会からの概要報告

#### (1) 第17回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2021年2月17日(水) 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：1 月 30 日開催の特別講座のアンケート内容の検討と近況報告

参加者のアンケートでは、「わかりやすかった」「初心者にとっても分かりやすい」という回答が多かった一方、「質問しにくい」と思う方が多かった。これについてフリートークを行った。質問のタイミングに工夫が必要、あるいは、進行の工夫としてWS やブレイクアウトルームを作ってもいいのではないか、などの意見が出た。

コロナ禍で Zoom 開催が続き、さらに社会情報研究会が担当する連続講座や特別講座が続いたため、次回、今後の進め方について意見交換することとした。

今回は新潟からも参加があったため、コロナや遠隔会議システムの利用について周囲の状況を伺った。地方都市では Zoom などあまり使われない、病院での子どもへの読み聞かせを続けてきたが、コロナの影響で中断している。病院での読み聞かせ活動は、「心のメンテナンス」の意味合いがあり、付き添いの方の時間を作ることや子供の心の解放も大きな目的である。読み聞かせを Zoom でできないか模索中である。との近況報告があった。 (森 記)

## (2) 「ライフプロデュース」研究会の報告

2月24日(水)、「ライフプロデュース」研究会 【如月会】、Zoom 開催いたしました。

17:00~18:45 参加者6名、休憩なし 飲み物 おつまみ、各自持ち寄り、出入り自由)、研究会活動への今後の抱負について自由に語り合いました。以下、抜粋です。

・ブログで2件の新連載が始まり、今後が楽しみである。

1. 「生き活きと輝く 80代シリーズ」

<http://jaas-lifeproduce.sblo.jp/article/188399365.html>

2. 「女60歳還暦を迎えて、言いたい放題、やりたい放題！」

<http://jaas-lifeproduce.sblo.jp/article/188422613.html>

・70代としては、80歳以上の方々の生き方に関心が高い。

・50代から70代の私たち世代に必要な Keywords を拾って共有し、生活レベルに落とし込むことが大事。具体的な事例研究をインタビューなどの方法で実施する、<質的研究=エスノグラフィ的なアプローチ>が、「ライフプロデュース」研究会らしい持ち味である。

・「共同参画社会」へ向けて、ジェネレーションギャップ、ジェンダーギャップ、孤老・孤立化を巡る諸問題、若い世代との共同プロジェクト、LGBTQ、フレイル、グリーンケア、ペットロスケア等に関する情報を共有し、若い世代のゲストスピーカーを招くことなども、今後、検討していきたい。

・アカデミズムとのシナジー効果、真のWIN-WINの関係を構築できる研究会でありたい。

・次回開催は、3月24日(水曜日) 17:00~19:00まで(途中入退出可、飲み物各自持参) Zoomにて開催予定です。新規ご参加希望の方(だれでも参加できます。)は、Zoom招待状を送りますのでご連絡ください。ご参加お待ちしております。

連絡先：中村昌子 [nakamurayoshiko6@gmail.com](mailto:nakamurayoshiko6@gmail.com)

## (3) 第129回「社会保障」研究会報告要旨

1) 日 時：2021年3月3日(水) 18:00~21:00

2) 報告者：宗像 亜矢子(行政書士・1級FP技能士・コスモス成年後見サポートセンター埼玉県支部会員)

3) テーマ：「成年後見人のお仕事~住みたい場所で安心して暮らせるために」

4) Zoomで開催。参加者 22人

今回は、成年後見制度に馴染みがない方でも容易に理解できる内容で成年後見制度についての

説明があった後、具体的な事例について詳細な発表があった。成年後見制度の種類としては、法定後見制度と任意後見制度があり、任意後見制度の契約の仕方の一つである移行型では「生前事務の委任契約」を同時に結べば、「まだ頭はしっかりしているけれど病気や老化等で身体が思うように動かなくなり、すぐに手伝って欲しい」という場合にも活用でき便利であること、また「死後の事務委任契約」を同時に結べば、ご本人が逝去された後も安心できること等の説明があった。

成年後見制度は開始から 20 年以上経つにも関わらず、判断能力低下者のうち認知症患者の 4%にも満たない人にしか利用されておらず、広く普及していないという現状があり、その理由として、旧制度（禁治産、準禁治産）時代の「保護」の意識が抜けず家裁が任命するのも法律職が多かったり、被後見人等になることが、弁護士等様々な資格の剥奪事由になっていたことや、主に親族後見人による多額の横領が散見されたこともあげられる。

成年後見制度の利用実績の低さを打破するために、2016 年に成年後見制度利用促進法が公布され、2017 年成年後見制度利用促進計画が閣議決定された。より多くの方に制度を知ってもらい、良さを実感頂くために、最高裁も関わり、今、「保護」から「支援」への変革が行われている。具体的な指針として、「意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン」が 2020 年に策定され、「すべての人には自分のことを決める力がある」という前提に立ち、本人にとって重大な決定をする場合には、本人が自分で決めるのを支援するよう方針を決めていこうとする「意思決定支援」がこれからの後見人等に求められるようになった。

その後、報告者が実際に担当した事例（法定後見の保佐類型、法定後見の後見類型、任意後見契約監督人選任前）について、「ご本人の意思を尊重しながら、ご本人の人生を支援する難しさ」について語られた。人生の主演はご本人にほかならないため「住みたい場所で安心して暮らせるために」想像力を働かせながら、ご本人の意思や権利が尊重されるようにきめ細かい身上配慮にこれからも努めていくとの決意が述べられた。（宗像亜矢子 記）

## 5. 事務局からのお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

コロナ禍中、各種ご連絡をメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・eメールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による会員情報変更や退会の連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、eメール・郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願い申し上げます。

<緊急事態宣言中の事務所の開室について>

事務局は、緊急事態宣言を受け 2021 年 3 月 21 日（月）まで休室とします。その後は様子を見て開室日程をお知らせします。その間、電話・FAX はご利用できませんのでご容赦ください。ご不便をおかけしますが、ご用件、お問合せは、出来るかぎり eメールでお願いいたします。

新型コロナウイルス感染の終息は、いまだ見通しは立っていません。皆さまそれぞれ自粛されていることと存じますが、いつでも自らが感染する恐れが薄らぐことはないような状況です。今後とも十分な注意を払ってお過ごしいただきますようお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人シニア社会学会・事務局（水、および月または金オープン）  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-27-4 ナカヤビル 202  
電話&FAX：(03) 5778-4728  
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/